

ノマツツジ（サクラツツジ）を播種して

田 中 国 昭

（農学部附属農場）

はじめに

ノマツツジは野間岳一帯に自生しており、花の色がさくら色であることからサクラツツジとも呼ばれる。枝先に一個の花芽から2～3個の花が開き、花の直径は5～6cmで、雌しべ1本、雄しべ7～8本、花弁5枝であり色彩の濃いのが特徴である。冬になると葉は枝先に3～5枚輪生し、表面は光沢があり裏面には細かい毛があり、葉先は鋭くとがる巻葉であり、挿木、取り木の繁殖は困難である。そこでこの研究では、自然交配した種子の実生からノマツツジ特有の花色を備えた個体を育成することを目指した。

材料と方法

1991年11月に自然交配した種子を採種し、ビニール袋に入れて日陰で乾燥させ、3月に育苗箱に播種した。用土は水苔区とビートモス区の2区とした。

移植は2～3cm伸びた苗を、山取りの赤土を用土としたポリ鉢9cmに鉢上げした。1回目の鉢替えは、鉢上げ後2～3年で40～50cmに伸びた時点で、山取りの赤土を用土としたポリ鉢12cmに植え替えた。

その後、花色、花形、葉形、葉性で選抜し、翌年2回目の選抜を経て、圃場栽培をして、花色、花形の状態を観察している。

結果と考察

当初、発芽、発根はそれぞれ良かった。しかし、ビートモスの生育は水苔に対して悪くなった。水苔に播種するときは、水苔をそのまま使うと水苔と根がからまりほぐすのに困難だったため、播種するときは水苔を1cm位に切ったほうが、移植する際に一本ずつ分けやすく移植が早い。

またビートモス単体だと水もちが良いので根毛の出が少なく、水苔とビートモスを1：1で播いたほうがよいと思われる。

播種にあたっては、種が微粒のため厚播きにならないように気をつける。

自然交配のために、花の色、葉の形、紅葉の程度に違いが見られた。

目的の一つであった紅紫色の濃い花色を持つものは約1500本中数本しか出現せず、自然交配の難しさを知った。

今後は、ノマツツジの薄白を母木にノマツツジとサツキの専多白を交配して、他にない純白の色の花を得る準備をしている。

自然交配によって出現した花



赤紫の花 母木として使った花



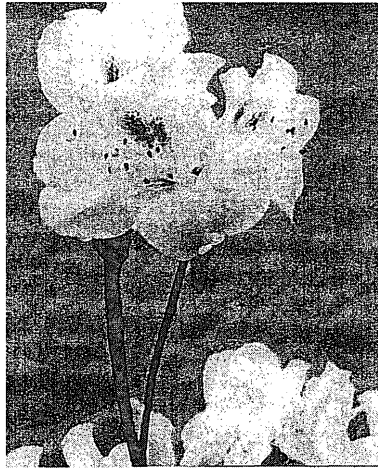
普通一般的なさくら色のノマツツジ



濃い紫のT字咲き



赤紫の濃い花



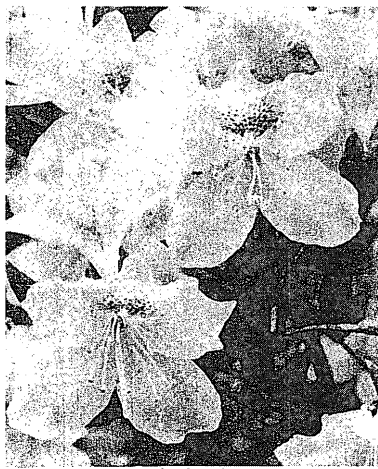
ブロッチが鮮明な花



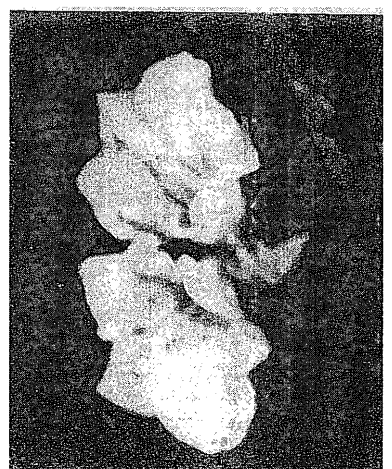
紅紫の花



紅色の花



ピンクの花



淡い白紫色